

新年度がスタート！

平成に替わる新たな元号として「令和（れいわ）」が発表され、5月から新元号に替わる大きな節目の年であります。「令和」は、万葉集の一説から取られ、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められているとのこと。

4月8日（月）に各小・中学校において入学式・始業式が実施され、子どもたちも教師も新たな気持ちでスタートしたものと思われれます。年度初めは行事が多く、なかなか落ち着かない日が続きますが、1年間の学習の基本となるための「学級づくり」をすることが大切です。自校の「学習の手引き」等をもとに、学校生活の基本ルールや授業での約束事を全教職員が共有し、足並みをそろえて指導・支援を行うことが必要になります。



子どもたちが安心して学べる学級づくりを行い、「質の高い授業を子どもたちに提供」できる1年間となるようお願いします。

◇学校教育アドバイザー（麻布教育研究所 村瀬先生・永島先生）

本市では、全国でも先進的な取り組みである「学校教育アドバイザーによる派遣事業」を今年度から本格的に実施します。校内研修や授業研究会等で講話や指導助言をいただくことができます。

各学校からの希望を調整の上、1年間の訪問日程を作成し、各学校に送付しました。訪問の際には、よろしく願いいたします。なお、1学期中にすべての小・中学校に訪問する計画になっています。

教職員着任式&教育研修会を開催！

4月2日（火）の午後2時から、須賀川市役所において平成31年度教職員着任式と教育研修会を開催しました。他市町村から転入された先生方、新採用の先生方、合わせて58名の教職員が着任しました。

教職員研修会では、学校教育アドバイザーの村瀬先生、永島先生から「授業づくり・授業研究を中心とした学校づくり」をテーマに講話をしていただきました。次のような話がありました。

- ◎世界共通の課題 ①活用できる力（生きる力）②協同学習と深い理解（主体的・対話的で深い学び）③自律的な専門職としての教師（学び続ける教師）
- ◎問題行動・学習障害を抱えている子どもは、授業で支えるのが基本である。
- ◎全国学力テストから（B問題が伸びてからしかA問題は伸びない）等

「ほめて育てる！」

学校教育に限らず「ほめて育てる」ことの重要性が言われています。上手なほめ方、心得について、下記事項を参考にしてください。

◎上手な「ほめ方」

- ・結果ではなく、プロセスや努力でほめる。
- ・失敗したときこそほめる。
- ・兄弟の場合は、一緒にほめる。
- ・第三者を介してほめる。
- ・叱りを入れてタイミングよくほめる。
- ・ポイントを見つけて具体的にほめる。

◎上手に「ほめる」心得6カ条

- ・照れずに思い切ってほめる。
- ・笑わずに真剣にほめる。
- ・何度でも繰り返してほめる。
- ・相手がほめてほしいことを見抜く。
- ・一方的にほめ続けない。
- ・感謝の気持ちを素直に表わす。

これらを配慮し、上手にほめれば、その効果はいかなく発揮されると思いますが……。

※しかし、「ほめる」ことのテクニックに走るのではなく、教師自身が上記のことを自然にできるようになることが、より大切なことです。



子どもたちは教師の話し方や対処の仕方を見て感化を受け、自然にそれらのまねをするようになります。教師自身の姿勢や話し方について時折チェックしてみましょう。



教師の話し方チェック

□きちんとした言葉遣いで話していますか？

○子どもたちに公的な話し方を身につけさせるチャンスです。

×授業中も友だち言葉で話す。

□一人一人の子どもと目を合わせて話していますか？

○子どもは1対1で聞いています。

×黒板の方を見て話す。

□発問をして、すぐに復唱したり、補足説明をしたりしていませんか？

○混乱させずに、一度で聞き取る力をつけましょう。

○「一回しか言いませんよ、よく聞きましょう。」

□一人一人の子どもの発言を受け止めていますか？

○まずは、相づちで受容しましょう。

○「なるほど、うんうん、いいね、ほう…」など

□一人の子どもの発言で授業を進めていませんか？

○全員に「考える」習慣を身につけましょう。

○「これでいいかな、どうしてそう考えられる？」

□子どもの発言を途中から引き継いだり、復唱したりしていませんか？

○自分たちの力で、子ども同士が学び合う力をつけましょう。

○意見をつなぐ発表の仕方を示す。「○○さんの意見は、△△ですが、私は…」など

□先生が自分の言葉で、子どもの意見をまとめていませんか？

○まとめる力をつける機会を与えましょう。

○「今までの意見をまとめるとどうなる？」など

□単調な話し方になっていませんか？

○私語や手遊びが始まるきっかけにならないようにしましょう。

○テンポを変えてメリハリを
○短いセンテンスで

教師の声かけ



◇教師の声かけにより、「よい聞き手」を育成することも重要なことです。

《教師の声かけの例》

「今の○○さんの聞き方はいいね。うなずいていたね。」

「○○さんはすぐにメモした。えらいな。力がつくよ。」

「わからないことをきちんと質問した○○君は、聞き手のお手本だね。」

「よそ見をしているのは話を真剣に聞いていないと思われてしまうね。」

※「よい聞き手」を育成するには、即時即座の声かけが大切となってきます。

今年度も教育研修センターの積極的な活用を！

教育研修センターでは、昨年度、要請訪問を26校152回、特別支援訪問を12校19回を実施しました。また、各種研修講座には、延べ700人の先生方に受講いただきました。

今年度も5名の指導主事（菊池進、添田栄美子、添田直彦、七海千加、湯田厚子）で、各種研修会の充実や各学校の支援にあたっていきたくと考えています。各学校においては、現職教育を中心に、授業力や教師力向上のための取り組みを進めているとは思いますが、ぜひ、研修センターの「教員ジャンプアップ研修」等の研修や各種研修講座を積極的にご活用ください。

